

## 山形大学紀要(医学)原稿作成上の注意

### 1 投稿論文の提出

本誌への投稿は次のものを揃えて、山形大学紀要(医学)委員会委員長(以下、「委員長」という。)に提出する。

手紙	1部
表紙	正1部, 副2部の計3部
抄録	正1部, 副2部の計3部
原稿	正1部, 副2部の計3部

### 2 手紙

論文がこれまでに他誌に掲載されたことがない、又は投稿中ではないことを述べた内容を含むもの。

### 3 表紙

表紙には、以下の内容を明記する。

- (1) 論文名(略語を用いないこと。)
- (2) ランニングタイトル(和文25字以内, 英文40字以内)
- (3) 著者名
- (4) 所属講座名(又は機関名)
- (5) 論文の連絡者名
- (6) 英文の校閲を受けたNative Speakerの所属, 氏名等
- (7) コンピュータのOS名, ワードプロセッサのソフト名(バージョンも記入のこと。)

### 4 抄録

和文においては800字以内, 英文においては200語以内として, 構成は, 背景, 方法, 結果, 結論などの具体的内容を簡潔にまとめる。Key wordsを5つ以内付記する。和文論文にあつては英文抄録として英文タイトル, ローマ字著者名(フルネーム表記), 英文所属, 英文抄録, Key wordsの順に記載したものを添付する。

### 5 原稿

- (1) 原稿にはA4判用紙を用い, 周囲に3cmの余白を空ける。原則としてワードプロセッサを使用する。
- (2) 和文は40字×30行とし, 平仮名, 横書き, 現代仮名づかいを用いる。英文はダブルスペースで, 原則として80字×20行とする。数字は算用数字を用いる。和文の原著, 総説は原則として16,000字以内, 症例報告は8,000字以内とし, 英文の原著, 総説は25枚以内, 症例報告は10枚以内とする。表・図・写真は400字と換算する。
- (3) 原著論文の構成は, 緒言, 対象と方法, 結果, 考察, 謝辞等を含むものとする。
- (4) 本文中の引用文献は該当箇所の右肩に片括弧で示し, 別記を参照にして謝辞の後に一括して配置する。
- (5) 表・図・写真は本文の該当箇所に括弧で表示し, 本文とは別にまとめて引用文献の後に添付する。
- (6) 測定単位以外の略語は使用しない。ただし, 標準的な略語は初めて表示する際に省略元の語句を明示した後に使用してもよい。
- (7) 商品名, 薬品名は一般名とし, 単位, 記号は国際単位を用いる。
- (8) 動植物, 微生物等の学名は, 和文では片仮名とする。
- (9) 統計処理法を明記する。
- (10) 文部科学省科学研究費補助金等の研究費の出所は謝辞の項に記載する。
- (11) 査読終了後に投稿論文を収録したフラッシュメモリー, CD-R等(以下, 「フラッシュメモリー等」という。)にウィルス等の感染が無いことを確認の上, 委員長宛に提出する。フラッシュメモリー等には投稿論文(表・図・写真の説明を含めてもよい。)以外のファイルを収録してはならない。

### 6 「海外ニュース, トピックス等」の投稿について

本学部関係の海外研究者が, 現地での研究の動向(ニュース, トピックス等)を投稿する場合は, 和文は40字×30行で作成の原稿4枚以内, 英文は80字×20行で作成の原稿6枚以内とする。また, 本学における所属講座(責任講座)を明記するものとする。

## 7 「学会報告」の投稿について

- (1) 掲載の対象は以下の要件を満たす学会報告等の抄録（以下「抄録」という。）で、委員会が適当と認めたものとする。
  - 1) 本学部教職員が当該学会の運営主体であり、責任講座（教授）及び責任者が明確である。
  - 2) 当地方において定期的に開催される医学及び関連分野の学会（懇話会等を含む。）である。
  - 3) 「山形大学紀要（医学）投稿規程」に準拠し、一定の書式で継続して投稿の予定がある。
- (2) 抄録の言語は、和文又は英文とする。
- (3) 抄録の長さは、演題1件につき400字以内とし、刷り上がりでおおむね1.5頁以内（1,200字×4枚＝4,800字、目次は掲載しない。）とする。ただし、やむを得ない場合に限り、委員長は刷り上がりの頁増を認めることができる。
- (4) 抄録の審査は、委員長又は委員長が委嘱する委員1名が審査を行う。
- (5) 抄録の掲載は、全頁数のおおむね10%を目安とする。

## 別記

（引用文献の記載方法）

- (1) 引用順に一括して記載する。
- (2) 雑誌名の省略は、Index Medicus 及び医学中央雑誌に従う。
- (3) 著者が6名以内の場合は全員を記載し、7名以上の場合は最初の6名のみを記載して後は「他」又は「et al.」とする。
- (4) 記載形式は以下のとおりとする。

### 例 ① 雑誌

1. 楊黄恬, 野呂田郁夫, 遠藤政夫 : メトキサミンの強心作用とP I代謝促進効果. 心臓 1994; 26(Suppl.4): 24-28
2. Endoh M: Physiological and pathophysiological modulation of calcium signaling in myocardial cells. Jpn Circ J 1991; 55: 1108-1117

### 例 ② 単行書

1. 遠藤政夫, 安部不二夫 : 血管平滑筋内皮細胞におけるCa イオンの研究法. 江橋節郎編, エクオリン実験法. 東京 ; 学会出版センター, 1990 : 291-301
2. Watanabe T, Shimazaki Y, Saitoh H, Kuraoka S, Ji Wei Zhang, Oshikiri N, et al. : Nutrient blood flow in the canine brain perfused retrogradely during hypothermia. In: Kawashima Y, Takamoto S, eds. Brain Protection in Aortic Surgery. Amsterdam; Elsevier, 1997: 59-69